

第二次世界大戦中、加西市の鶉野台地に姫路海軍航空隊基地と川西航空機鶉野工場が造られました。

当時の基地関連施設であった滑走路やコンクリート製防空壕・機銃座などが、今もなお数多く残り、戦時の面影を伝えています。このような戦争遺産がまとまって残っていることはまれであり、全国的に見ても貴重な歴史遺産といえます。

加西市は、財務省からの払い下げを受け、これらの貴重な戦争遺産を後世へ残し、鶉野飛行場跡地を観光・平和学習施設や防災拠点として、順次整備します。

広報かさい別冊では、鶉野飛行場跡地が今日までたどった歴史を振り返ります。

貴重な戦争遺産を 後世へ



戦後間もない頃の鶉野飛行場全景（昭和 23 年撮影、米軍撮影空中写真より抜粋 国土地理院蔵）

■姫路海軍航空隊基地

姫路海軍航空隊（通称「姫空」）は、昭和18年10月に加西郡九会村（現加西市鷓野町を中心とした場所）に開隊しました。姫空は、実用訓練を行う練習部隊であり、訓練を終えた練習生が全国の航空隊に赴任していきました。

基地の建設工事は、それに先立つ同年3月に始まり、工事建設のため、敷地内（鷓野、中野、下宮木）にあった100戸余りの住宅や九会国民学校も移転されました。

工事は人力で行われ、付近の小高い丘を削り、池を埋め立てましたが、丘はツルハシで削り、土の運搬にはレールを引いてトロッコを使用しました。この工事には、朝鮮人の労働者、近隣の加西郡、加東郡などからの勤労奉仕団が従事しました。

基地の概要は、防衛省防衛研究所に残る史料から、右のようなものだったと分かっています。

昭和20年2月、戦局の悪化に伴い、姫空からも志願者が募られ白鷺特別攻撃隊が編成されました。3月には大分県宇佐海軍航空隊へ進出し、4月には沖縄戦支援のために6回にわたって鹿児島県串良基地から出撃し、63名が戦死しました。姫空は昭和20年5月5日に閉隊され、その短い歴史を閉じました。



当時の姫路海軍航空隊基地の庁舎（上谷昭夫さん提供）

■基地の概要

| | | | |
|-------------|---|-----|---------|
| 基地名 | ／ 姫路 | 主任務 | ／ 教育、作戦 |
| 建設の年 | ／ 1943年（昭和18年） | | |
| 飛行場 | ／ 1,200m × 60m（コンクリート製）1本 1,200m × 200mのもの2本 | | |
| 用地面積（飛行場除く） | ／ 9,157㎡ | | |
| 格納庫 | ／ 庁舎 2,092㎡、兵舎 8,919㎡ | | |

■川西航空機株式会社鷓野工場

川西航空機株式会社（現在の新明和工業株式会社）は、海軍機を造る飛行機会社でした。戦争が始まると、川西航空機は急激に生産力を拡大し、昭和14年に甲南製作所、翌年に宝塚製作所、昭和18年に姫路製作所が設立されました。姫路製作所では紫電・紫電改の量産に備えましたが、完成した飛行機を飛ばす飛行場がなかったため、昭和19年に姫路海軍航空隊基地の西側に組立工場である鷓野工場を建てました。

姫路で造られた機体は馬力などを使い鷓野工場に運び、組み立て後、鷓野飛行場で試験飛行を行い、完成した機は海軍に引き渡されました。さらに、同飛行場で海軍の搭乗員による試験飛行を経て、実戦部隊に引き渡されました。終戦までに姫路製作所では、紫電466機、紫電改44機を製造しました。

終戦間際には、北条（保木山）、段下、笠松などに疎開工場を作ったと記録が残っています。



紫電改（「加西・鷓野飛行場跡」より転載）

■国鉄北条線 列車転覆事故



脱線転覆した蒸気機関車（C12形）の動輪が、事故の歴史を伝える証人として綱引駅に設置（昨年1月から5月）

昭和20年3月31日、北条町駅発栗生行き機関車が綱引駅付近で脱線転覆しました。事故原因となったのは、海軍による最終検査中の紫電改のエンジンが飛行中に急停止し、不時着しようとした際に鉄道の線路を引っかけて、線路を外してしまったことによるものでした。線路が外れたところへ機関車が接近し転覆。機関車の上に木製客車が乗り上げ、中ほどでくの字型に折れ曲がりました。

民間人を巻き込み、死者11人、負傷者62人という大惨事となった事故にもかかわらず、詳しく調査されることはなかったようです。「軍の機密」「調査の必要無し」と憲兵隊長が言ったと、当時の車掌はのちに証言しています。この日の戦時日誌には「紫電1機 離着陸訓練中不時着陸、機体大破、搭乗員殉職」とのみ記してありました。

空襲

昭和 20 年 3 月 19 日、姫路海軍航空隊基地に空襲があり、米海軍の空母艦上戦闘機による銃爆撃がありました。当時坂本に住んでいた古家實三さんの日記には、「鶉野にも 26 機来襲、黒煙奔騰」と書かれていました。

基地への本格的な攻撃は、米軍資料によると、7 月 24 日と 30 日でした。24 日午前 11 時に F4U（コルセア）10 機、11 時 59 分に 8 機が攻撃したと記されています。



今もそのままに残る鶉野飛行場跡地の滑走路

この日の海軍第 3112 設営隊戦時日誌によると、「11 時 40 分敵艦上機本隊並二飛行隊来襲爆撃銃撃」。飯盛山トンネル入口付近で、「三発 50kg 爆弾投下され奈良空練習生 1 名戦死人夫 3 名重軽傷」と、書かれていました。

30 日の攻撃は、午前 6 時 50 分に 4 機の F6F（ヘルキャット）、9 時 40 分に 9 機の TBM（アベンジャー）、9 時 45 分に 7 機の F6F、午後 2 時に 4 機の F6F の 4 回と、米軍資料にあります。

古家さんもその日の日記に、「午前 3 回、午後 1 回、鶉野へ敵機来襲」。翌日には、「川西（航空機）の社宅で母子 3 人即死、外工員、海軍兵数名の死傷者」「王子の民家 5 戸が機銃掃射により屋根を破壊」とその被害を書かれていました。

戦後の鶉野飛行場

昭和 20 年 8 月 15 日終戦。基地において米軍の進駐前に書類などが焼却処分されたと言います。10 月 23 日、アメリカ軍が元姫路海軍航空隊基地に進駐し、翌年 5 月まで兵器や弾薬の処理にあたりました。

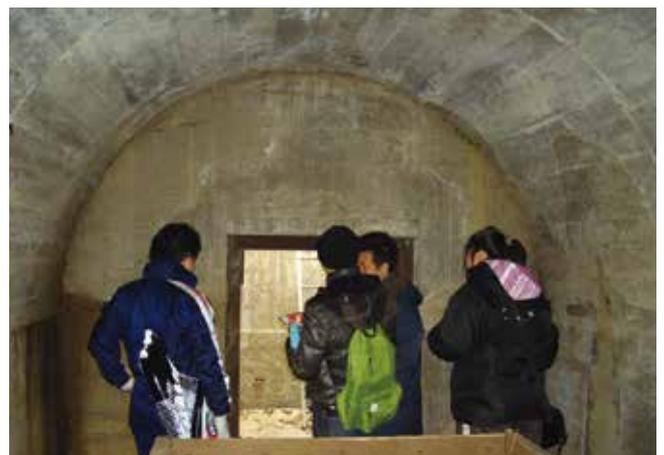
基地跡は復員・引揚者などの受入先、あるいは食糧増産のため緊急開拓事業が行われました。基地跡は固くしまる整地土のため開墾が困難でありましたが、入植者や地元の人々の努力によって、次第に農地に姿をかえてきました。

しかし、滑走路を含む一部はアメリカ軍に接收されたり、昭和 27 年 4 月には警察予備隊（自衛隊の前身）が旧航空隊兵舎に進駐したりしました。昭和 32 年 9 月には、接收も解除され、滑走路は大蔵省の管轄となりました。何度か播磨空港建設用地の話も出たようですが、実現することはありませんでした。

昭和 39 年頃、県立兵庫農科大学の神戸大学移管に伴い、兵舎施設跡 40 ヘクタールに附属農場（現神戸大学食資源教育研究センター）が建設されることになり、昭和 41 年に工事が着手されました。当時、敷地内には建物基礎、防空壕などが散在していました。これらの頑強なコンクリート構造物は、工事予算の都合上完全に撤去できず、一部はそのまま残ることになり、現在に至っています。



地下指揮所跡防空壕



防空壕の内部

■鶺野平和祈念の碑の建立

平成6年11月、滑走路跡で開催された「KASAI スカイパークフェスティバル」が契機となり、滑走路近くの会社に勤務していた上谷昭夫さんが、元海軍関係者や地元関係者との出会いを通して、鶺野飛行場の戦史調査を行うことになりました。

調査は、防衛研究所図書館に通うなど本格的なものであり、関係者に話を聞く中で、資料や写真の提供を受けるようになり、この基地で特攻隊が編成され出撃していたことも判明しました。

地元「鶺野平和祈念の碑苑保存会」（三宅通義会長）が結成され、平成11年10月に碑が建立されました。

碑には、元特攻隊員の思いや戦死者氏名、搭乗員殉職



鶺野飛行場跡地に建立された鶺野平和祈念の碑苑

者の名前が刻まれています。再び戦争のない平和を祈念するモニュメントとして、基地建設の経緯、基地および川西航空機鶺野工場の概要なども記され、名前も「平和祈念の碑」とされました。

建立にあわせ、上谷さんは、調査研究の成果を『いまに残る姫路基地』（上谷昭夫編、鶺野平和祈念の碑建立実行委員会、1999年）にまとめました。その後、川西航空機に焦点をあてた『紫の閃光－川西航空機秘話』（上谷昭夫編、鶺野平和祈念の碑苑保存会、2002年）が出版されました。この二冊は、姫路航空隊基地と川西航空機鶺野工場を知る上で貴重な資料となっています。



鶺野飛行場資料館（鶺野町 2193）

時代の経過とともに、当時の記録はますます貴重なものとなりつつあります。鶺野平和祈念の碑苑保存会では、鶺野飛行場や加西市での戦争関連の資料を集めています。ご協力をお願いします。 **問合せ先**／同保存会（三宅） ☎ 49-0759

■戦争遺産の活用の動き

平成22年には、飛行場に関する基礎調査を加西市と神戸大学で実施しました。また、「戦争遺産見学バスツアー」の企画など、戦争遺産を観光資源として活用していく取り組みが行われました。

平成23年には、地元鶺野中町の住民が中心となり、コンクリート製の地下指揮所と考えられる防空壕を展示場として整備し、平和学習に役立てようと公開しています。見学希望者は加西市観光案内所（☎ 42-8823）まで。

平成26年には、鶺野平和祈念の碑苑保存会により「鶺野飛行場資料館」がオープンし、飛行場の歴史をまとめたパネルや戦闘機模型などが展示されています（毎月第1・3日曜日、10:00～16:00、入場無料）。また、コンクリート製の機銃座の整備も進みました。

平成27年には、戦後70年の節目として、「戦争遺産シンポジウム」を開催。阪神から姫路にかけてバス5台を含む約400名の方に参加いただき、加西の戦争遺産をより知っていただくきっかけとなりました。



鉄と樹脂で造られた対空機銃の実物大模型（銃身約1.5m）

■参考／鶺野飛行場についてもっと知りたい方は、次の資料もご覧ください（市ホームページからも可）。
・「加西・鶺野飛行場跡（旧姫路海軍航空隊基地）」
・「神戸大学・加西市共同研究 鶺野飛行場関係歴史遺産－活用シンポジウム記録集・基礎調査報告書－」